

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年 1月 31日				
事業所名		公表日 2025年 1月 31日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	利用人数を時間帯で分けることで、過密を避け、ゾーニング（学習エリアと休憩エリア）を計画的に配置。	スペースの利用状況や支援環境に関して、子どもや職員の見解を取り入れ、改善につなげる。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	支援の滞りなどが無い様に、適切に配置できる様に配慮している。	適切な職員の配置は必須要件なので、怠ることのないように心掛けていく。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	子どもが活動や休憩をしやすいように、スペースを用途別に分ける（学習エリア、遊ぶエリア、リラクゼーションエリアなど）。	子どもの成長や特性の変化に応じて、できることは環境をアップデートしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	清掃スケジュールを明確化し、清潔で心地よい生活空間にしている。子ども自身が片付けやすいよう収納棚を低位置に設置。	環境を整えた後も、定期的な見直しやメンテナンスを行う。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	85%	15%	子ども一人で過ごせる個室スペースを設置し、カーテンで簡易的に空間を区切り、プライバシーの確保に配慮している。	個室の数は限られるため、一度に利用できる人数は限られているが、今の所は特に不満などはない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	定期的なミーティングを開催し、職員が自由に意見を出せる場を設けている。	意見を出しにくい職員には1対1で話を聞く機会を設け、今以上に参画しやすい環境へと整備する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	評価表の内容を見直し、サービスの改善に努めている。	改善策を実行した成果を次回の評価表で確認し、改善の連続性を保つ。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	全職員が意見を出し合う場を設け、小さな意見や提案でも前向きに受け入れ、改善に繋がるようにしている。	職員から収集した意見について、管理者が改善状況や採用可否を定期的に報告する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0%	100%	第三者による外部評価を行っていない。	第三者による外部評価は行ってない為、機会があれば検討していきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	市や社会福祉協議会による研修の他に、職員希望する外部研修などがあれば、積極的に参加を促すと共に、法人内においても研修を実施している。また、研修を希望する職員が研修に参加できる様にシフトなどにも配慮している。	今後も積極的に研修などに参加できる環境を整えていく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	全職員と話し合い等によって、日々の支援プログラムを作成している他、毎月のお便りやLINEなどで、支援プログラムを公表している。	HPなどで活動の内容を分かりやすく伝えるように工夫を重ねていく。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	問い合わせ時や契約時とともに、通所開始以降も保護者との話し合いや面談等を定期的に行い、サービス計画を作成している。	保護者や子どもからのフィードバックを計画に反映させ、より柔軟で実用的な内容となるように心掛けていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	日々の活動内容や様子等を記録し、職員間の意見交換を促進させるための時間を確保することで、共有理解する下で子どもたちの最善の利益を考慮した検討を行っている。	計画作成のプロセスや判断基準を全職員で共有し、子どもの利益が最善に考慮された計画であるか検討を重ねる。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	全職員が自由にサービス計画を閲覧できるような環境を整え、計画の実行状況をフィードバックする際に、良かった点や課題を定期的に確認している。	計画の確認の既読・未読の状況を記録する仕組みを取り入れる。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	観察時の評価基準を職員間で共有し、一貫性を持たせるようにしている。	日々の行動観察などでちょっとした変化などがあった時には、ミーティング等で、すぐに話ができる体制を整えている他、連絡帳や送迎時等に保護者への聞き取りや支援に対する希望などのなどを伺っている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	子ども一人ひとりの発達段階や興味・関心に応じた具体的な目標を明確化するとともに、保護者から日常生活での困りごとや希望をヒアリングし、それを内容に反映させるように設定している。	今後も、職員での会議や保護者との面談を通じて、支援内容を共有しながら見直しを行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	定期的なミーティング等で全職員と共に、活動プログラムの立案を行っている。	フォーマルな会議だけでなく、職員間で気軽に相談できる雰囲気醸成する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	日々のプログラムは児童の進行度や様子に合わせており、月ごとのイベントも季節に合わせたものを考えている。	他施設の成功事例やプログラム内容を参考にして、当事業所に相応しい形で取り入れる。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	学習では個人活動、工作などでは集団活動のようにメリハリをつけて行っている。	子どもが成功体験を得られるよう、難易度を適切に設定し、達成感を味わえるよう支援を提供する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	支援内容や課題を共有し、その日の支援計画に反映させるとともに、職員の得意分野や児童との相性を考慮した配置を行う。	職員間の経験やスキルのばらつきが連携不足を招く可能性があるため留意する。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	支援時の成功事例や課題を具体的な活動に基づいて共有を行っている。	支援終了後の限られた時間を有効に使うため、要点をpushさせたミーティングを実施する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	支援プログラムおよび児童の様子について詳しく記録が取り、記録をもとに具体的な改善案の検討を行っている。	記録作業が負担にならないように、簡潔に記入できる仕組みを整備する。
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的にも適切にモニタリングを行い、それをもとに支援の見直しもなされている。	モニタリング→計画見直し→実施→再モニタリングのサイクルにおいて、今後も改善が行われる仕組みを継続する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	100%	0%	「4つの基本活動」を総合的に取り入れたうえで、子ども一人ひとりの特性や興味に応じて厚みをもった支援を行っている。	今後もガイドラインに沿った支援を行っていく。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	学習や工作の時には、子どもが選択しやすいように複数の選択肢を提示し、自己選択をして取り組んでもらっている。	職員全員が、子どもの選択を尊重し、それを実現するための支援に努める意識を共有する。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	日々そのこどもと関わり、支援計画や状況を把握している職員が優先的に会議に参画している。	時間の限られた会議でも、要点を正確に伝えられる資料を準備する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	保護者を通じて、主治医や学校との情報交換を促進し、各機関との連絡がスムーズに行えるよう体制を整備している。	関係機関と連携する際、それぞれの役割を補いつつ、支援が効率的に進むように調整をする。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	送迎支援を行っていない為、保護者から学校での行事・下校時刻等を教えてもらうようにしている。	保護者を通じて学校との情報共有を促進し、こどもの下校時刻や行事予定について三者間で確認を取り合えるようにしていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	必要に応じて情報共有及び相互理解を行っている。	今後も情報の共有と相互理解に努め、子供が安心して支援を受けられる環境の整備に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0%	100%	前例がない為、評価できません。	今後必要の際は、適宜対応していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	研修に参加したり、必要に応じて助言を受けている。	積極的な連携が出来るように、日頃から連携をより深めていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	頻繁ではないが、地域で交流する機会をつくるようにしている。	障がいの特性により、集団活動が難しいこどもがいる場合、無理のない形で参加できるプログラム作りを探っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	部会の案内がきた際は、参加するようにしている。	協議会のテーマによっては、参加しない事もあるが、より積極的に参加をするようにしていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	来所毎に保護者にその日の様子やプログラムを細かに話し、必要に応じて相談支援等を行っている。	保護者が多忙な場合でも負担にならないよう、連絡やフィードバックのタイミングをさらに工夫する。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	毎月のお知らせやLINE等を使って、家族支援に関する研修の情報提供を行っている。	アンケートやヒアリングを通じて、保護者が必要としているテーマや形式を把握し、プログラム内容に反映させる。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	保護者が理解しやすいよう、面談形式で個別に丁寧に説明し、質問にその場で答える時間を確保している。	初回説明以外にも定期的に内容を振り返り、保護者がより深い理解を得られるよう努める。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	定期的に保護者とこどもからの要望や意向を聞く場を設けている。	職員が親しみやすい態度を心がけ、保護者やこどもが気軽に相談できる環境を維持する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	保護者の意見や質問を計画に反映させながら、同意を得ている。	計画同意後も、定期的に保護者との話し合いの場を設け、柔軟に計画を見直していくプロセスを標準化する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	面談だけでなく、電話や送迎時での相談など、多様な方法で相談を受けられるようにしている。	相談を通じて家族の困りごとやニーズを的確に把握し、それを支援計画に反映させる環境を維持する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	保護者会でのニーズの把握や保護者へのLINE通知や毎月のおたより、送迎時などを通して、情報の周知を行っている。	保護者会の開催が少なかったため、積極的な開催を目指していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	対面、電話、メールなど、さまざまな方法で苦情を言いやすい環境を整え、再犯防止に努めている。	苦情を言い出しにくい保護者やこどもに対し、心理的安全性を確保する取り組みを、より積極的に行っていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	用紙による会報を毎月発行するとともに、ホームページやLINEを活用して情報の発信を行っている。	今後も、情報が分かりやすく伝わるように積極的に発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報を含む書類やデータの施設外持ち出しは厳禁にし、個人情報が記載された書類は鍵付きのキャビネットに保管している。	今後も個人情報の取り扱いには十分に注意し、外部に漏れないように細心の注意をはらっていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	こどもや保護者のニーズに応じた対応を行い、障害特性に配慮した方法で情報を伝える（例：視覚支援、簡潔な言葉を使う）。	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達の際には各人に対してしっかり配慮していく。

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	町内会との定期的な交流を行っている。	積極的な開催ではなかったが、より地域に開かれた事業運営を行いたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	各種マニュアルを作成し、定期的に各種の訓練を行っている。	今後も定期的に訓練を行っていくと共にマニュアルなどの周知徹底を行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	業務継続計画（BCP）を策定すると共に、非常時災害の発生に備え、定期的に避難訓練等を行っている。	今後も必要な訓練を継続していくと共に、心肺蘇生法、AED等の研修も行ってきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	保護者と定期的に連絡を取り、服薬の状況や健康状態等を共有し、連絡帳や電話、送迎時などに確認を行い、把握している。	今後も保護者に定期的な情報提供を求め、変化があった場合はすぐに更新する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	平時はおやつ等の提供はないが、特別なイベントでは「アレルギー成分表」の配布を行っている。	今後も保護者から定期的な情報更新を求め、食物アレルギーに関する更新情報を保つ。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	施設内外で発生しうるリスクを特定し、予防策や緊急対応策を明確にして、状況に応じた安全対策を整えている。	避難経路の確認、消火器や応急処置セットの備品確認、非常時の連絡手段など、安全設備が常に適切な状態かを定期的にチェックする。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	保護者に対して、安全計画及び事業所内の安全に関する取り組みの内容と説明・共有を行っている。	今後も通所時の安全対策の徹底をお願いしていくと共に、訓練などを通して、いざという時の対応策を確認していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットを他教室と共有し、事故が起きた原因と対策を考え、教室で周知し同じ案件が起きないように対策をとっている。	今後もヒヤリハットが発生した場合、再発の防止と共に、職員全体で振り返りを行う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止に関する研修を定期的に行い、虐待防止に関する知識や対策を学ぶ機会を設けている。	虐待防止に関する知識のブラッシュアップに努め、今後も研修内容を定期的に見直ししていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	現在、身体拘束を必要とする利用者はいない為、サービス計画に記載はしていないが、やむを得ず拘束する場合は、委員会での組織的な決定や子どもや保護者に事前説明をし、事前説明を行い了承を得ないといけないことを周知徹底している。	全職員に対する研修を行い、やむを得ず身体拘束を行う時の注意点、特に自己判断で行えない事を周知徹底し、必要と思われる事例があれば、必ず委員会を通して保護者に説明を行い、了承を得た上で行う体制を構築しているが、現在のところ拘束が必要な利用者がいない為、研修などを通じて問題意識を持ち続けられるようにしていく。